

あなたは大丈夫？

『定額給付金』を装った振り込み詐欺に注意

『定額給付金』を装う不審電話が全国で相次いでいます。

その代表的な手口は、市の総務課を名乗る犯人が『定額給付金を振り込みます』という電話をかけ、相手から口座番号を聞き出そうとしたり、『政府給付金アンケート』などと名乗り、ダイヤル操作を促す音声ガイダンスが流れるというもの、いずれも『振り込み詐欺』や『個人情報詐取』を狙った手口と思われまます。

口座番号を教えてしまうと、犯人は偽造カード（紛失を装い、カードの再交付を受ける）をつくり、その口座から現金を引き出します。また、音声ガイダンスによるアンケートも総務省では実施していません。

現在、支給予定となつている『定額給付金』については、連絡や給付を行う段階ではありませんので、次のことに注意し、被害の未然防止に努めてください。

①市や総務省などがATM（銀行・コンビニなどの現金自動支払機）



の操作をお願いすることは、絶対ありません。

②ATMを自分で操作して、他人からお金を振り込んでもらうことは絶対にできません。

③市や総務省などが、『定額給付金』の給付のために、手数料などの振り込みを求めることは絶対ありません。

④現時点で、市や総務省などが住民の方の世帯構成や銀行口座の番号などの個人情報照会することは絶対にありません。

※ご自宅や職場などに市や総務省の職員などを語つた不審な電話がかかってきたり、郵便物が届いた場合には、迷わず、市民サービスグループや室蘭警察署（または警察相談電話#9110）にご連絡ください。

※詳しくは、総務省ホームページ（<http://www.soumu.go.jp/>）を参照してください。

▼問い合わせ 市民サービスグループ（☎053491）

人が輝き まちがときめく

仲間たち Group

布の絵本ボランティアの会



洋裁や和裁の腕を生かして布の絵本や遊具などの製作に励んでいます

『布の絵本ボランティアの会』は、昭和52年8月に社会福祉協議会主催のボランティアスクールを受講した方が中心になり、『登別市ボランティアの会』として発足。平成元年ころから、布の絵本製作が活動の中心になったため、平成19年度に活動内容が分かりやすいようにと、名称を『布の絵本ボランティアの会』と改称しました。現在、会員は19人。『しんた21』を活動の拠点として毎週金曜日に例会を開催し、洋裁や和裁の腕を生かして布の絵本やエプロンシアター、布のおもちゃなどの製作に励んでいます。

内小学校の特別支援学級などの支援として、障害や機能回復に必要な学習教材などの要望があれば製作寄贈します」と話すのは会長の堀切智恵子さん。

「これからも子供さんからお年寄りの方まで楽しい夢を与えられるような活動、困っている人に喜ばれる活動を続けていきます。少しでも興味のある方気軽に連絡ください」と堀切さんは入会を呼び掛けていました。

2年前前に入会した佐藤寿子さんは、「いろいろなお話をしながら、和気あいあいとした雰囲気で大変有意義な時を過ごしています。昼食時には漬物などを持ち寄り食べながら楽しんでます」と話してくれました。

入会を希望される方は、堀切さん（☎053491）までどうぞ。

